千年未来工芸祭

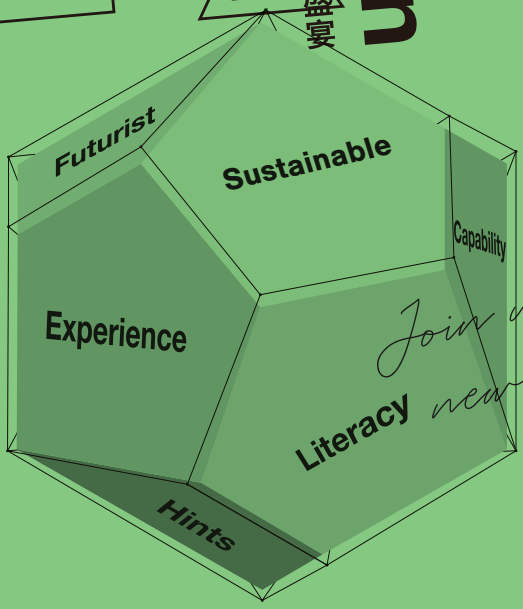
ECHIZEN CRAFT MIRAI CoNEXTion 2021

超越五感所感知到的时空的手工艺盛宴

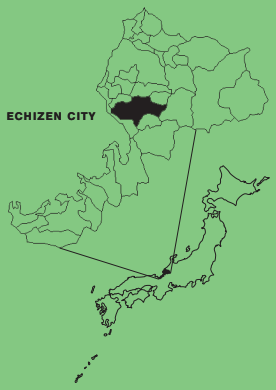
4/1000

4

People, mastery, local, past to present,
then connecting to the future.
Feel the festival beyond the time
and space with fine-tuned sense



Join us a new dimension of the Craft



千年未来工芸祭

ECHIZEN
CRAFT
MIRAI
CoNEXTion
2021

@craft1000mirai

craft1000mirai.jp

千年未来工藝祭 2021

ECHIZEN CRAFT MIRAI CoNEXTion

持続可能な未来に向けて工藝と文化が地域と時空を超えて解き放たれる

多くの工藝やクラフトの作り手が、新型コロナウイルスの影響を受ける中、3回目の開催となる今年、千年未来工藝祭が作り手と使い手をつなぐ場であるために、開催方法を模索・検討してきました。

いまこそ、「CoNEXTion(共に未来へつながる)」を目指し、オンラインを活用して産地や作り手と使い手をつなげるコンテンツを届けるとともに、様々な視点から持続可能な未来に向けて越前の工藝ができることを考えていきたいと思います。

People, mastery, local, past to present, then connecting to the future.
Feel the festival beyond the time and space with fine-tuned sense.
It is an event called “1000 NEN MIRAI KOUGEI SAI”
[One thousand years future craft festival] aiming at creating a chance for people living now to meet the traditional craftsmen in person, and touch their products.
We believe that it will help people to understand the craftsmanship of our town and eventually to succeed passing the manual skills down to the next generation.

人，技，地域，从过去到现在，并且连接着未来。

超越五感所感知到的时空的手工艺盛宴

千年未来工艺节，是希望成长在现代的年轻人，通过触及手工艺人的手艺，作品及个性时，

在近距离感受其工艺与技术的同时，能够成为将手工艺传承到下个时代的契机的活动

Photo Bao Yanzhou

ー世界に誇れるモノづくりのまち越前市ー

1500年の歴史を誇る『越前和紙』、700年の歴史を継承する『越前打刃物』、江戸時代から伝わる『越前箪笥』が今もなお、まちの文化・生活を支え続けている福井県越前市。世界に誇れる「モノづくりのまち」越前市から、地域を超えて、時空を超えて、工藝の魅力をお伝えします。
本当に良いモノは、いつの時代も生まれ続け、そして時代に合わせて変化していきます。作り手との交流や体験を通して、モノとの関わり方や、暮らしの中で良いモノを楽しむ意味を 改めて見つめ直してみませんか。

BESPOKE 伝統工藝｜越前和紙

伝統工芸士 長田和也 Kazuya Osada [株式会社長田製紙所]

伝統工芸士 長田和也とあつらえる一つだけのタペストリー

□製品
越前和紙タペストリー

□特徴
バー付きオリジナル和紙タペストリー。装飾的なものからシンプルなものまで、今まで制作してきた作品をベースにご提案させていただきます。デザイン、色味、和紙の中に入れ込むもの等ご相談ください。

□価格
100,000円～

□製作可能サイズ
サイズ（最大2m×3m）

□材質
和紙

納期
1ヶ月～3ヶ月

世界を魅了し続ける、1500年の伝統と技術の集積 越前和紙

1500年以上の歴史を持つ越前和紙。越前で漉かれた最古の紙として、正倉院に残された730年（天平2年）の戸籍には、すでに越前和紙らしきものの記録が残されており、雁皮（がんぴ）を用いた溜め漉き（一度だけ原料の入った水を汲み込み、簀桁を揺らして水を抜く紙漉きの手法）で質が高いという評価まで示されている。室町時代には公家や武家の公用紙である「越前奉書（えちぜんほうしょ）」を生み出し、明治時代以降は紙幣や証券も製造されるなど、その品質は古くから高い評価を受けてきた。また、越前和紙は芸術分野でも注目されており、横山大観や平山郁夫などが愛用。あのピカソからも注文が来たといわれている。国内はもとより、海外のアーティストも愛用する越前和紙。その魅力は一体何なのだろうか。それは、この産地の職人たちみんながそれぞれ切磋琢磨して時代に即した紙を作り続け、長く続く伝統の中で、先人たちの柔軟性と対応力がいまでも脈々と受け継がれ、使い手のために時間と手間を惜しまないものづくりの精神が、現代の職人にも継承されているからである。

創作活動から生まれる発見を紙の未来に繋げる長田和也

産地としての歴史と伝統を担い、(株)長田製紙所は、「時代とともに進化し続ける和紙の暮らし」を追求している。八太夫の屋号を持つ長田家としては13代前まで遡ることができ、製紙業としては1909年（明治42年）、襖紙製造から始まった。現在は4代目 長田和也を中心に、襖紙や照明用和紙、タペストリー、和紙小物など幅広い和紙製品を手掛けている。伝統工芸士 長田和也は、手漉き模様を中心とした、襖紙のデザイン・製造のほか、各種美術工芸紙の開発にも抜かりがない。近年では、先々代より伝わる「飛龍 HIRYU」（絵柄を漉き込む技法）を用い、タペストリー・和紙ランプシェード「すきあかり」といった使い手の要望に合わせた製品作りから、多岐にわたるアート作品の制作まで手がけている。その創作意欲の源は、1987年、和紙組合事業の手伝いで米国に1ヶ月間滞在したときに、NYソーホー地区などで刺激を受け、帰国後、現代美術今立紙展の出品をきっかけに本業のかたわら創作活動を続けて来た。創作活動から日々生まれる発見と感動が、製品作りにも繋がっている。

天然紙を漉くことで、「ものづくり」の精神と向き合う

またライフワークとし天然紙の制作も手掛けている。長田和也は言う。「天然紙は一年に一度だけの制作で、完全無添加で原料を仕上げ、昔ながらのやり方で行うのでかなりの手間と時間を要します。でも実際に携わっていると、昔の方が今よりも効率的だったり、美しく仕上がったり、驚きや発見、課題が見えてきて、さらなる研究意欲がわいてきます。そして、技術の積み重ねが今につながっていることを実感するんです。また、紙としての原点回帰をしてみたかったのです。紙がいちばんなりたい形にしたかったのです。

Text 内田裕規［千年未来工藝祭プロデューサー］ / Photo 内木 洋一

BESPOKE 伝統工藝｜越前打刃物

伝統工芸士 弥氏良寛 Yoshihiro Yauji [寛-Kutsurogi-]

伝統工芸士 弥氏良寛とあつらえる自分だけの刃物

□製品
片刃牛刀もしくは、どんな刃物でも

□特徴
両刃のものとは違い、切れ味が鋭く、切ったものの変色などが起こりづらい片刃牛刀もしくは、ご相談いただければどんな刃物でもお作りいたします。

□価格
20,000円～

□製作可能サイズ
刃渡り390mmぐらいまで

□材質
刃の材質は青紙（V特2）白紙（V2C）それぞれ2層と墨流し、ハンドル材質は、紫檀八角/水牛朴木八角/ケヤキ八角
拭き漆　他

納期
半年 ～ 一年

一人の刀匠の想いから、世界屈指の鍛造産地となった越前打刃物

越前市に長らく伝わる伝統工芸の中で、包丁や鎌などに代表される「越前打刃物」は700年以上の歴史を誇り、現在も打刃物職人が日々鍛錬を続けている。越前打刃物の歴史は古く、時は1337年（延元2年）、鎌倉から室町へと変わる動乱の南北朝時代、京都で刀匠として名を馳せた「千代鶴国安」が、刃物に適した土地を求めていたところ、製作に必要不可欠な素材、「水」「鉄」「燃料」これら三つが豊富に揃った越前と巡り合ったことから歴史が始まる。国安という刀匠が訪れたことにより全国的にも秀でた産地となり、現在では世界的にもその技術を認められるまでになっている。刃物を作るための工程は、大きく分けて14ある。鋼と鉄の塊を鍛造して強くし、形を作り、火を入れ、また打ち、火を入れ、冷やし、また打つ。そして、最後に刃を研ぎ仕上げる。工程の一部は機械化されたとはいえ、基本的な作り方は700年前から変わっていない。中でも、越前打刃物の工程にはユニークな特徴がある。包丁の「二枚広げ」である。「二枚広げ」とは、刃を二枚重ねて裏と表から槌で打ち、二枚同時に薄く延びるよう手早く作業する工程だ。二枚重ねることで厚みが倍になり、槌で打ち圧縮されることで強度が増し、板むらが少なくなり質の高い刃物に仕上がる。

歴史を紐解き、ものづくりの原点を未来に繋げる鍛人 弥氏良寛

越前打刃物 伝統工芸士 弥氏良寛は、「越前打刃物の最大の特徴である日本古来の火づくり鍛造技術・手仕上げを学ぶ中で、先人達が700年の歴史を持つ伝統技術を継承してきたことの偉大さを感じた」と言う。幼少期から帰宅すると祖父と一緒におもちゃを手作りするなど、自分の手でものを作る楽しさを覚えてきた。大人になり、自分の思いを残せるものを作っていきたいと熱望し、日本刀を作ってみたいと刀鍛冶に憧れを抱きつつ、地元の福井県越前市にて700年の歴史をもつ「越前打刃物」を学ぶため、タケフナイフビレッジの北岡刃物製作所に入社。和包丁をメインに親方の下で学び、2018年に伝統工芸士となる。技術の研究や、後継者の育成・指導にも余念がなく、2021年4月に独立し、伝統工芸を通じて歴史・文化の「学び」、支援・互助の「思いやり」、生活の「寛ぎ」のワンアクセントになるようにとの思いを込め「寛-Kutsurogi-」を立ち上げた。弥氏良寛が代表を務める越前たたら研究会「鍛人(かぬち)」では、刃物にまつわる技術を後世に継承することを目的とし、たたら製鉄の技術研究活動も行っている。

「心・技・体」を鍛え、伝統工芸を伝える継承者に

共同工房を備えるナイフビレッジでも、親方達から技術や思いを学ぶことにより「心・技・体」を鍛える事が重要だと教わり、伝統を守りつつ、技術・製法を進化させていくことに日々努力している。また、体験教室を通じて、自分の手でひとつのものを完成させたときの喜び、一から作り上げることで生まれるたくさんの笑顔に触れ、教え伝えていくことの大切さを強く感じているそうだ。

Text 内田裕規[千年未来工藝祭プロデューサー] / Photo 内木 洋一

BESPOKE 伝統工藝｜越前箪笥

伝統工芸士 小柳 範和 Norikazu Oyanagi [小柳箪笥店]

伝統工芸士 小柳範和とあつらえる芸術的キャビネット

□製品
『OYANAGI』キャビネット

□特徴
伝統の指物技術と、全世界の銘木の魅力が融合した、新しいキャビネットを生み出しました。モノを入れるだけのものでなく、アートにもなるキャビネットとなっております。木色や大きさだけでなく、塗装、内部の仕様、ハンドルの仕様まで事細かにお客様の用途やご意見を伺いながら、お客様の為のキャビネットに仕上げます。

□価格
150,000円～

□製作可能サイズ
ご要望に応じて製作（要相談）

□材質
木・鉄

納期
2ヶ月～6ヶ月

職人の活躍により、守られ継承されてきた越前箪笥

奈良時代の頃、現在の越前市のあたりは国府（こくふ：その地域の政治的中心地）が置かれていたため、さまざまな文化や技術が集まった。室町・戦国時代には朝倉家の府中奉行所が置かれ、指物師と呼ばれる人たちが朝倉家の茶道具を作り、あらゆる工芸技術の集積地となったことから、時の権力者たちに庇護されることとなる。国府のあった地に府中城を構え、不破光治・佐々成政・前田利家の府中三人衆をはじめ、多くの主君が入れ替わり立ち替わり入城して、職人たちの生活を守ったと言われる。さらに江戸時代には、福井藩松平家の家老である本多富正が産業の奨励を行ったことにより、ますます多くの職人がこの地に集まり、指物・漆・金具が特徴である越前箪笥が栄える下地ができた。そして、幕末から明治中期頃には本格的な箪笥職人が活躍したことにより、今も越前市に残る「タンス町通り」が成立した。この存在こそが、伝統技術が現代に脈々と受け継がれている証でもあり、歴史の証明であると考えられる。

先人たちの想いを守破離の精神で共創する小柳範和

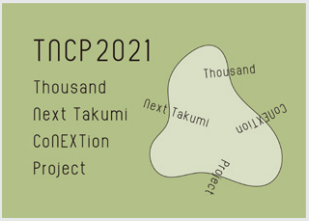
木を組み、漆を塗り、飾り金具をつくる。越前箪笥の3つの技すべてをこなす職人は、今では数えるほどしかいない。そのひとりが小柳箪笥店の4代目・小柳範和だ。創業1907年（明治40年）、初代が旦那衆の指物、2代目が嫁入り道具の桐箪笥、3代目は建具や家具を得意とした。伝統工芸士である小柳範和は言う。「それぞれが時代に即したものづくりをしてきましたが、共通しているのは“あつらえる”こと。使い手のために魂を込める姿勢は一貫しているんです」伝統の技を継承しつつも、クリエイティブなものづくりを目指し、木製の雑貨から家具まで幅広く手がける。根底には芸事の進化の思想をあらわす「守破離」の精神、すなわち、先人の技術の結晶である型を受け継ぎながらも、いかにイノベーションしていくかという、型破りの追求があり、それは使い手との関わり方にもあらわれている。また、小柳範和は自身のものづくりに「共創」という新たなテーマを掲げ、従来型のオーダーメイドではなく、産地に足を運んで木を選び、実際の作業にも参加してもらうスタイルを提案している。

ただの箱ではない、箪笥という「人の縁」と「歴史」を紡ぐものづくり

思い出づくりが家族の絆をつくり、箪笥が宝物として受け継がれていく物語を形にしたいのだという越前箪笥の精巧な指物の技も吉兆をあらわす金具の細工も、家や人を守る願いから生まれ、磨かれ、高められてきたものだ。「箪笥は、ただものを入れる箱ではなく、その家、その人、そのものの歴史だと思います」と語る小柳範和の言葉は、この地で箪笥をつくり続けた先人たちの想いそのもののように感じる。

Text 内田裕規［千年未来工藝祭プロデューサー］ / Photo 内木 洋一

TNCP2021 -Thousand Next Takumi CoNEXTion Project



T Thousand
N Next Takumi
C CoNEXTion
P Project

若手職人 チャレンジ作品発表

越前市伝統工芸三産地の若手職人が集まり自らのアイデアで製作した作品を実際にユーザーに手に取ってもらう場を企画しました。皆さんの声が、産地の未来を担う若者の意識醸成や課題発掘の貴重な機会になると思い、千年未来工藝祭として新しい取り組みを開始。未来を担う若手職人の熱い思いを実際に感じてください。

参加若手職人

○越前和紙
長田 泉 Izumi Osada [(株)長田製紙所]
古澤 花乃 Kano Frusawa [(株)五十嵐製紙]
加藤 義樹 Yoshiki Katou [(株)五十嵐製紙]
谷田 和音 Kazune Tanita [(株)五十嵐製紙]

○越前打刃物
山本 貢 Mitsugu Yamamoto [山本打刃物]
中里隆寛 Takahiro Nakazato [安立打刃物]

○越前箪笥
小柳 勇貴 Yuuki Oyanagi [小柳箪笥店]
若月 寛人 Hiroto Wakatsuki [小柳箪笥店]

CRAFT SOUNDSCAPES はたらく、つくる、うまれる音

「CRAFT SOUNDSCAPES」は、ものづくりの際に生じる音や、古くから伝わる作業唄を掘り起こし、音楽家やアーティスト達の手で、CRAFTを別の視点から共鳴させることを目的としています。ものづくりの現場で録音した音を用いて、ミュージシャンが楽曲を生み出し、現場で撮影した映像と組み合わせて作品を生み出します。

Producer　内木 洋一 ／ 堀木 俊 ／ Senior producer　内田 裕規

越前和紙

撮影協力
紙漉き唄　やなせ和紙 伝統工芸士 柳瀬 晴夫　有限会社 やなせ和紙
作業風景 ／ 作業音　滝製紙場 和紙職人 伝統工芸士 瀧 英晃
映像制作　木村 悟之　音楽制作　ONPUN

越前市を代表する工藝「越前和紙」を、ミュージシャンのユニット ONPUNと映像作家木村悟之による作品を制作しました。越前和紙は昔から、横山大観や平山郁夫、ピカソ。現代では、千住博やリチャード・セラといった世界中のアーティストに愛されています。その越前和紙の工房から発する作業音と作業風景をもとにミュージシャン ユニット ONPUNと映像作家木村悟之による工藝が生まれる音の風景作品を制作しました。

越前打刃物

撮影協力
作業風景 ／ 作業音　タケフナイフビレッジ協同組合
映像制作　木村 悟之
音楽制作　skrew kid

越前市を代表する工藝「越前打刃物」を、ミュージシャン SKREW KIDと映像作家木村悟之による作品を制作。およそ700年の歴史を誇る伝統工芸品「越前打刃物」1本1本手作りの包丁は海外で人気があり、その優れた技術と品質は高く評価されている。それは一人の刀匠からはじまった。1337年(南北朝時代)京都の刀匠千代鶴国安が刀剣制作に適した地を求め、府中(現越前市)に来住し、そのかたわら近郷の農民のために鎌を作ったことから始まったといわれている。

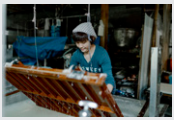
越前箪笥

撮影協力
長持唄　鈴木 白峰 [鈴木彫刻所 木彫刻師／民謡講師]
作業風景 ／ 作業音　佐々木桐たんす
映像制作　木村 悟之　音楽制作　PPTV

越前市の工藝「越前箪笥」。昔から花嫁行列で披露されてきた、長持唄を木彫刻師鈴木白峰が唄い、DJ PPTVが創る音と融合して表現。そこに、佐々木桐たんすの製作工程を追い続けた映像作家 木村悟之の映像が融合。文化継承の新しい表現を是非。越前箪笥は、奈良・白鳳時代から伝わる越前指物の技術によって作られた箪笥。ケヤキや桐 等の木材を独自の釘を使わないほぞ組み技術(指物技術)で作られている。豊かな装飾の飾り金具や漆塗りをした重厚なつくりが特徴である。

工房探検!!バーチャルディスカバリー 越前の伝統工芸を360°VR映像で巡る

世界に誇れるモノづくりのまち越前市には、1500年の歴史を誇る『越前和紙』、700年の歴史を継承する『越前打刃物』、江戸時代から伝わる『越前箪笥』が今もなお、まちの文化・生活を支え続けています。千年未来工藝祭では、工房の魅力を沢山の人々に感じてもらうことを目的に、スマートフォンを使えば、いつでもどこでも越前市の工房巡りが体験できる、360° 工房探検コンテンツ。自由に視点を変えながら閲覧が可能となっていますので、思いのままに工房を探検してみてください。


越前和紙 柳瀬良三製紙所

越前和紙（有）やなせ和紙

越前和紙 山田兄弟製紙（株）

越前和紙（株）長田製紙所

越前和紙（株）五十嵐製紙

越前打刃物 タケフナイフビレッジ

越前箪笥 松井タンス店 手づくり工房

VR工房探検ページ

新世界工藝網 越前の工藝の可能性を探る

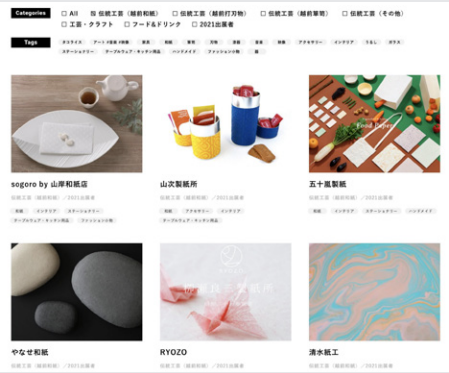
新アジア工藝網｜越前×台湾×香港の工藝の可能性を探る

新世界工芸網｜越前×香港×ドイツ工藝の可能性を探る

世界各地で活躍しているデザイナーやクリエイターと共に「CoNEXTion」（共につながる）をキーワードに、オフライン、オンラインを活用したデジタルトランスフォーメーションでのハイブリッドな仕組みを利用し、工藝から産業、観光、ライフスタイル、働き方、生涯学習の発展までを、様々な視点からディスカッションすることで、越前の可能性を探ります。

2021 CoNEXTion Members' Page

作り手と使い手のみなさまが繋がるサイト== 作り手のサイトから直接お買い物をお楽しみください。千年未来工藝祭は、工藝産地が集まる越前市や丹南地区、そして全国の作り手の思いと技術を千年先まで繋げたい、という想いのもとスタートしたイベントです。コロナ禍に見舞われた2020年。リアル開催が危ぶまれ、オンラインコンテンツでいかにつくり手の作品や思いを伝えられるか新しい手段を考えました。その中で生まれたCoNEXTion Members' Page。過去・現在・未来にわたり、千年未来工藝祭とのご縁をくださった作り手のみなさまを、HPを訪れた使い手のみなさまに繋げるページとして誕生しました。2020年からスタートしたこの企画。今年度が2年目となり、千年未来工藝祭2021に出展予定だった作り手の皆様も加わり公開されました！伝統工芸品やクラフト作品の作り手、イベントを盛り上げてくれる飲食店の作り手と、これからも毎年歴史のページを重ねていきます。



周辺三産地

越前打刃物

◯池ノ上 越前打刃物エリア

刃物の里 https://www.hamononosato.com
〒915-0873 福井県越前市池ノ上町48-6-1
TEL 0778-22-1241
営業時間 午前9時00分～午後5時
休館日 毎週火曜・年末年始

◯タケフナイフビレッジ https://www.takefu-knifevillage.jp

〒915-0031 福井県越前市余川町22-91
TEL 0778-27-7120
営業時間 午前9時00分～午後5時
休館日 年中無休（年末年始を除く）

越前箪笥

◯タンス町通り

越前箪笥会館
〒915-0823 福井県越前市本町1-19
TEL 0778-22-0667
営業時間 午前11時00分～午後4時
休館日 水・木曜

越前和紙

◯越前和紙の里 https://www.echizenwashi.jp ※共通入館料200円必要

卯立の工芸館 https://www.echizenwashi.jp/udatsu/
〒915-0232 福井県越前市新在家町9-21-2
TEL 0778-43-7800
営業時間 午前9時30分～午後5時

紙の文化博物館 https://www.echizenwashi.jp/museum/
〒915-0232 福井県越前市新在家町11-12
TEL 0778-42-0016
営業時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 毎週火曜(祝日の場合は営業)・年末年始

パピルス館 https://www.echizenwashi.jp/facility/papyrus/
〒915-0232 福井県越前市新在家町8-44
TEL 0778-42-1363
営業時間 午前9時～午後4時
休館日 年末年始
※和紙処えちぜんは午後4時30分まで

産地へのアクセスや周遊が便利に

無料周遊バス運行
タクシー利用促進券…市内約30ヵ所拠点間移動一律300円/回
https://welcome-echizenshi.jp/tourism_detail/1000mirai-access2020/